

教科（科目）	情報（情報Ⅰ）	単位数	2単位	学年（コース）	1学年（普通科）
使用教科書	実教出版『最新 情報Ⅰ』				
副教材等	実教出版『パーフェクトガイド情報 Office2016対応』 実教出版『令和4年度版 全商情報処理検定 模擬試験問題集3級』 実教出版『Excelでまなぶプログラミング』				

1 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質や能力を育成することを目指す。

2 指導の重点

- ①コンピュータを使った情報処理の仕組みについて理解させる。
- ②情報の信頼性および信憑性、知的財産権の重要性、情報モラルの涵養を図る。
- ③プログラミングの基礎を身に付けさせる。

3 学習計画

月	単元名	学習活動（指導内容）と方法	時間	評価方法
4 5	情報に関する基礎知識 第1章 情報社会と私たち 1 情報社会 2 メディアとデザイン 3 情報社会が築く新しい社会	・情報の特性から、情報とは何かを理解する。 ・知的財産権など、情報社会の法規と権利について学習する。 ・情報が社会で果たす役割等について学習する。	18	課題提出 中間考査
6 7	ビジネス文書・速度	・タイピング練習。 ・ビジネス文書検定3級速度部門の練習。	12	期末考査 全商ビジネス文書検定
9 10	Excel 情報処理検定3級	・1月の情報処理検定3級を目標に、筆記・実技の学習。	12	中間考査
11 12 1 2 3	Excel（9・10月から継続） 情報処理検定3級 プログラミング（Excelと同時進行） 第6章 アルゴリズムとプログラミング 1 プログラミングの方法 2 プログラミングの実践	・1月の情報処理検定3級を目標に、筆記・実技の学習。 ・アルゴリズムの必要性や表現方法について学習する。 ・プログラムの作り方、制御構造について学習する。	22	期末考査 全商情報処理検定 学年末考査

4 課題・提出物

計64時間（55分授業）

- ・各学期ごとの定期考査と課題提出。
- ・全商ビジネス文書検定3級 速度部門は全員受験、文書部門は希望制
- ・全商情報処理検定3級を全員受験

5 評価基準と評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱うことができる。	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	情報社会に関心を持ち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・検定に向けての取り組みや出欠状況 などから評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・学習に対する意欲や態度、思考力や表現力 などから評価する。	以上の観点を踏まえ、 ・課題提出、提出期限の厳守、 補習の出席状況 などから評価する。

6 担当者からの一言

受験予定の検定試験は以下の通り。

- 全国商業高等学校協会主催 ビジネス文書実務検定3級速度部門（7月）
- 全国商業高等学校協会主催 ビジネス文書実務検定3級文書部門（11月） ※希望制
- 全国商業高等学校協会主催 情報処理検定3級（1月）

情報モラルについても、様々な事例を示しながら、気をつけなければならないこと、情報を扱う上での態度を学習する。